

高島屋美術部創設 110 年記念

2018 年 3 月

Fifty Sketch Books

広田 稔 展

—50 冊のスケッチブック—



【Vol.1-5】

- 会期・会場：東京展＝2018年3月21日（水）～27日（火） 日本橋高島屋6階美術画廊
大阪展＝2018年4月11日（水）～17日（火） 大阪高島屋6階美術画廊
京都展＝2018年5月9日（水）～15日（火） 京都高島屋6階美術画廊
横浜展＝2018年5月30日（水）～6月5日（火） 横浜高島屋7階美術画廊

このたび高島屋では洋画家・広田稔先生の個展を、美術部創設 110 年記念の一環として開催いたします。

広田先生は 1959 年広島県に生まれ、東京藝術大学大学院（彼末宏教室）を修了後、1991 年より白日会に出品を重ね、現在は白日会常任委員の重責を担うと共に、個展・グループ展と精力的に発表を重ねておられます。

6 年振りとなる今展「50 冊のスケッチブック」は、写実絵画の世界に身を置き、ストロークで描く作家が、22.7 × 31.6 cm という極めて限られた空間で描く言葉を伴わない日記のようでもあります。

バレリーナをモチーフに人体の動きを流動的に描き、またそこに住まう人々の息吹をも封じ込める風景を描く洋画家・広田稔。今展では、観るものが頁を捲るという行為を加える事で始めて完成し、一篇の私小説を読んでいるかの様な趣を得られるスケッチブックを一堂に展覧いたします。

ボブディランが風に吹かれたように、広田稔は雨にうたれても世の中のあらゆる事象を網膜の記憶としてスケッチブックに投影していきます。

常に指先が絵具にまみれているそんな作家の詩画集とも言えるこの世に一冊のアーティストブックをどうぞご覧ください。



【vol.43-10】

□制作ノート広田稔:

きっかけは美術館や博物館に陳列してある絵巻物やスケッチブックにあったように思う。

一部しか見れないもどかしさと、見えない部分にもぎっしりと作家の想いと作品が詰まっているというロマンを何か個展のかたちで提示出来ないかと考えた。

僕の目にとまったもの、湧いてきたイメージを片っ端から描き綴ったスケッチブックをブックスタンドに立て掛け展示する。その日の気分によって開くページを替えて飾る楽しみもあるかなと思っている。

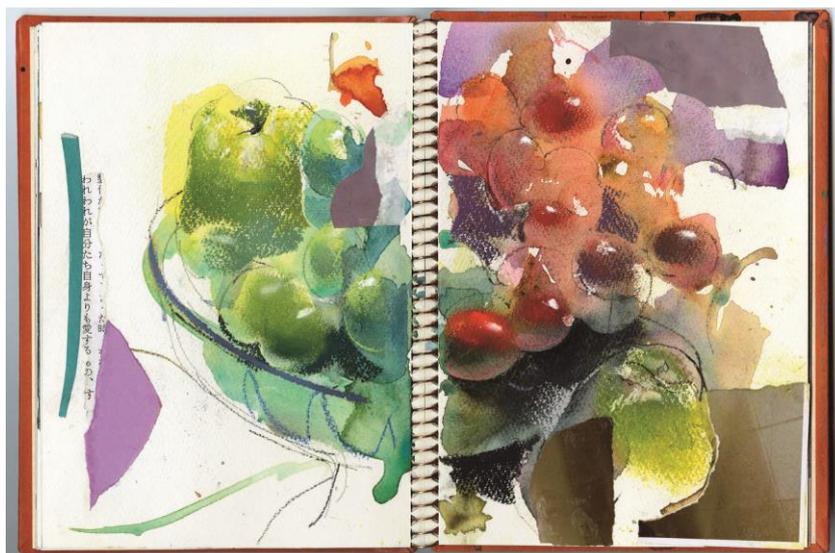
テーマは設けず、その日、その時の気分で描いた。後からページをめくってみると、次のページに予期せぬモチーフやテーマが続き、これが僕には非常に新鮮だった。

前回 2012 年に続き 2 度目のスケッチブック展になる今回は、この数年に経験した事や、いろいろなコラボレーションも大きく影響した。抽象作品や、偶然に画面にできた抽象的な形や色からイメージされた作品、身近な横浜の街角のスケッチも増えた。

素材について、スケッチブックはワトソン紙、ホワイトワトソン紙、ブレダン紙、ランプライト紙、その他を使った。これは紙が違くと発色や滲み方が違い、同じテーマでも違った展開が楽しめるから。描画材料は鉛筆、木炭、色鉛筆、パステル、透明水彩、ガッシュ、アクリルなど、油彩以外はほとんど使った。コラージュは大きくイメージを変えたり、発想のきっかけとなったりと、非常に有効な方法だった。また、マティス、ロダンの言葉、ボブ ディラン、友部正人の詩から一言ちぎって作品の中に貼ってみると、両方の要素が作用して、意外なイメージが出てきて面白かった。漫画家の池田晃久氏からもらった G ペンとインクは初めて使う画材だったが、消せないインクは制作に心地よい緊張とテンポを与えてくれた。

搬入直前に、描いたスケッチブックが 51 冊あることに気付いた。一冊多いが 50 冊のスケッチブック展に加える事にした。

広田 稔



【vol.16-8】

□各店ギャラリートーク：日本橋高島屋 6階美術画廊＝3月25日（日）午後2時より
大阪高島屋 6階美術画廊＝4月14日（土）午後3時より
京都高島屋 6階美術画廊＝5月12日（土）午後2時より
横浜高島屋 7階美術画廊＝6月 2日（土）午後2時より

【お問合せ】 日本橋高島屋 TEL(03)3211-4111（代表）